



エコマークアワード 2016

受賞団体・評価コメント

PRODUCT OF THE YEAR

プロダクト・オブ・ザ・イヤー

グリーンライトバンド

[認定番号: 16 112 014] グリーンプラ株式会社

グリーンライトバンドは、市場から回収した使用済みのプラスチック（ポストコンシューマ材料）を100%使用したPPバンドである。原料となるフレキシブルコンテナバッグは、工業薬品や飼料、食品等の大量輸送に適しているが、使用段階で様々な異物が混入して汚れてしまうため、使用済みとなった際、埋め立てまたはセメント原燃料として利用されることが多く、再生材料としての利用が難しい。受賞製品は、こうした利用づらい廃棄物の再利用に取り組み、強度の確保や不純物や汚れの除去等の課題を解決し、製品化に結びつけた点が高く評価された。再生材料としてポストコンシューマ材料の利用が十分に進んでいない中、受賞製品の取り組みは先導的なものであり、業界や他社への波及効果も大いに期待ができる。



[認定番号: 16 112 014]

ORPHIS FW

[認定番号: 15 155 054] 理想科学工業株式会社

ORPHIS FWは、オフィス、官公庁、学校で利用されている、高速インクジェットプリンタである。インクカートリッジおよび機器本体の回収・リサイクル等を推進し、国際エネルギースタープログラムの標準消費電力量の基準値を大幅にクリアするとともに、認定基準の策定当初は高速機では適が困難とされていた揮発性有機化合物などの放散に関する基準値をクリアするために、長期に渡る研究開発を続け製品化した。さらには日本・エコマークとドイツ・ブルーエンジェルとの相互認証制度を活用しブルーエンジェルの認定を受けた最初の商品であり、国際的な市場への展開も期待される。また、本商品の後に発売された上位機種（ORPHIS GD）では世界最速レベルの印刷速度を誇るなど、高性能と環境性能の両立を実現する企業としての継続的な努力も高く評価された。



[認定番号: 15 155 054]



ECO MARK AWARD 2016 エコマークアワード 2016

エコマークアワードは、公益財団法人日本環境協会が2010年度に創設した表彰制度です。

エコマーク商品をはじめとする環境配慮商品（以下、エコマーク商品等）の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク商品等のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。

2017年2月27日

JAPAN ENVIRONMENT ASSOCIATION
公益財団法人日本環境協会



エコマークアワード賞状



エコマークアワード
受賞ロゴ

「エコマークアワード」トロフィデザインについて
蛍光管の再生ガラスで作られたリングによって「人々の叡智による循環」というテーマを表現。受賞された企業や団体、そして全ての関係者が、より積極的な活動が続けるためのシンボルになることを願ってデザインされています。

賞状・トロフィデザイン: GKグラフィックス 木村雅彦氏



エコマークアワードトロフィ



エコマークアワード 2016 ウェブサイト:
<https://www.ecomark.jp/award/2016>

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9階
Tel: 03-5643-6255 Email: info@ecomark.jp



エコマークアワード 2016

受賞団体・評価コメント

「エコマークアワード 2016」選考委員長 講評

第7回目となる今回は、金賞1団体、銀賞1団体、特別賞1団体、そしてプロダクト・オブ・ザ・イヤーに2商品が選ばれました。今回はサービス分野、メーカー、行政という幅広い業種の団体が受賞されました。いずれも地域や消費者とともに活動することで裾野を広げ、さらに継続するという素晴らしい取り組みでした。また、メーカーでは開発の段階からエコマーク認定取得や環境配慮材料の使用を目指し、難しい課題に取り組む事例もありました。できることを確実に実践しながらも、より高いレベルでの環境配慮を実現するために検討・研究開発を進める企業・団体を高く評価いたしました。

今後も持続可能な消費と生産を目指した継続的な活動に、エコマークが活用されることを期待いたします。



筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授 西尾チヅル氏

「エコマークアワード 2016」選考委員のご紹介

伊坪 徳宏 東京都市大学 環境学部 教授

奥山 祐矢 環境省 総合環境政策局 環境経済課長

奈良 松範 諏訪東京理科大学 工学部 教授

西尾チヅル 筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授

山口 庸子 共立女子短期大学 生活科学科 教授

山崎 和雄 日本環境ジャーナリストの会 理事

以上50音順

表彰部門

金賞、銀賞、特別賞

概要	「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に大きく寄与する取り組みをした企業・団体等を表彰
対象	A. エコマーク認定商品保有企業（エコマーク使用契約者） B. エコマーク商品等の普及に貢献している企業、団体
選考方法	応募のあった団体の中から、「エコマークアワード選考委員会」にて選考
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● エコマーク商品等の認知度向上への取り組み ● エコマーク商品等の市場普及推進への取り組み ● エコマーク商品等の普及への取り組みの独自性 ● エコマーク商品等の普及への取り組みの継続性 ● エコマーク商品等による環境負荷低減効果

プロダクト・オブ・ザ・イヤー

概要	特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどが優れた商品・サービスを表彰
対象	2015年度、2016年度に認定されたエコマーク認定商品
選考方法	上記エコマーク認定商品から、「エコマークアワード選考委員会」にて選考
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● エコマークの4つの重点領域「省資源と資源循環」「地球温暖化の防止」「有害物質の制限とコントロール」「生物多様性の保全」のいずれか1つ以上に大きく寄与するもの ● その製品を使用することにより消費者の環境意識の向上、又は環境教育へのつながりが期待されるもの ● 消費者の購買行動を環境に配慮したものへと誘導することが期待されるもの

GOLD PRIZE

金賞

株式会社 帝国ホテル

直営4ホテルすべてでエコマークを同時に取得

～国際的ベストホテルを目指す企業として、快適性・安全性・利便性の追求と環境配慮を実現～

株式会社帝国ホテルは、日本を代表するホテルに相応しい最上級の“おもてなし”と、環境配慮を極めて高いレベルで両立させている。客室ゴミの20種類にも及ぶ分別や、エネルギー使用量の削減、食品廃棄物由来の肥料により育てた野菜などのメニューへの採用など、社内外の連携による環境活動を追求した結果、CO₂排出量や廃棄物の大幅な削減に成功している。大勢の従業員が働くホテルにおいて、「環境負荷を減らす」、「環境にいいことを増やす」、「活動を広く知ってもらおう」の考えのもと、全社横断的な体制で社内の課題や提案を集め、環境活動の領域を着実に広げてきた継続性と社員一人ひとりの高い志による努力も素晴らしい。国際的ベストホテルを目指す企業として、日本のホテル業界をリードするとともに、環境に配慮したサービス・おもてなしを海外にも発信していくものと期待する。

SILVER PRIZE

銀賞

中央化学株式会社

エコマークを活用して繋がる店頭回収リサイクルの輪

プラスチック製食品容器（トレーなど）を製造する中央化学株式会社は、小売店の店頭等にて使用済み食品容器の自主回収を進めるとともに、リサイクル技術の継続的な開発に取り組んでいる。このシステムで回収した発泡スチロールトレーを原料の一部に使用したエコベンチ（2001年にエコマーク認定を取得）は、消費者にも親しみやすく、店頭回収のリサイクルの輪を広げる優れた取り組みである。また、2015年にエコマーク認定を取得したCHUO A-PET GREENでは、透明のPET容器の原料に再生PET原料を使用するリサイクルに取り組み、設計上可能な商品にはエコマークを刻印し、消費者とのコミュニケーションに活用している。生産・物流部門の省エネ活動や環境会計の導入、出前授業や工場見学受入等の企業活動も高く評価された。

SPECIAL PRIZE

特別賞

秋田県 大館市

地域資源を活用した循環型社会の展開

かつて有数の鉱山地域であった大館市では、優れた鉱石処理技術を活用した数多くのリサイクル事業を積極的に推進している。これらの事業は、民間事業者との協働または市が主体となって展開されており、市民と行政が手を取り合って、循環型社会の形成に向けたまちづくりに取り組んでいるグッドプラクティスである。また、同市において全国に先駆けて収集実験が行われた使用済み小型家電リサイクルは、平成25年に施行された小型家電リサイクル法のモデルの一つとなった。市民へのエコマーク商品購入の推奨や、小・中学校や福祉施設、民間企業と連携したペットボトルキャップリサイクル事業、バイオディーゼル燃料の原料となる廃食用油回収事業、地域住民が多く参加するエコフェアの継続的な開催など、地域に根ざした活動も高く評価したい。